

山口大学 平成14年度入学式 学長挨拶
平成14年4月9日 学長 広中平祐

皆さん、入学おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。
これから皆さんは、それぞれの学部、学科、大学院で勉強されることになると思います。たぶん皆さんが僕の年齢になったときに、その数年間を思い出すことがあります。そのときが自分の人生にとって最も重要で最もやりがいがあつて最も充実したものになるのです。非常にたくさんのことを学んだと実感すると思います。大学というのは、読んで字のごとく大いに学ぶところです。学ぶというのは必ずしも学科だけのことじゃありません。もちろん学校の勉強もしてください。知識というのも非常に重要な出会いになります。しかし、それだけじゃなくて、辛抱強さとか、時にはあきらめとか、そしてまた再起する能力とかあるんです。そういう能力が身に付きます。それが一生君たちを助けるわけです。

私自身にとって、この入学式は人生最後の入学式になると思います。皆さんは今まで何回か入学式・卒業式を経験し、これからもまた入学式・卒業式を経験することだと思えます。僕にとってこれが最後ですから、少し個人的なことも話させていただきたいと思えます。

私は、18歳のとき一つの大きな質的な変化があつたと思えます。あの当時の大人は先が暗いような話ばかりしていました。しかし若い僕は、若さの強さで、かえって大きな希望を持ちました。一つには全国津々浦々に、国立大学ができたということです。そして僕は広島大学を受験しました。残念ながら勉強不足で不合格になりました。しかし翌年は大学に入ることができました。大学に入ると、僕は最初の1年半は猛烈に勉強しました。周りに余りにも優秀な人がいるので、びっくり仰天して一生懸命勉強しました。奨学金をお願いしたときも、入学したときの入試のレベルが問題だと言われました。しかし僕はそのとき面接する先生に、「僕は田舎からやってきた人間だから知識が足りないかも知れないけど、やる気は猛烈にあるし将来性は大きいんだ」と言って、その先生に笑われました。人よりも2倍は勉強してやろうと思って、自分の下宿は3畳ぐらいの部屋で、寝床をひいて、足の所に机を置いて、朝は目が覚めたら、がばっと起きてすぐ机に向かうと、それから夜はできるだけ勉強して、最後にはもうボタンキューでですね、伸びたらちゃんと床に入っているというシステムをつくって、1年半ぐらいは猛烈に勉強しました。それから少し余裕も出てスキー部に入って運動を楽しんだりしましたし、いろんな所へも旅行しました。

そして、これは大学院の時ですが、アメリカに行つて、アメリカで勉強する相手たちを見ると、僕の仲間の同級生の中にドイツから来た僕よりも3歳ぐら

い年下の人と、またイギリスからやって来た僕よりも5歳年下の連中がですね、何で神様っていうのはこんな天才をつくるんだろうと、こんなに人間に差をつけるんだろうと、本当に神様を恨んだぐらい彼らは優秀でした。しかし僕は日本から来た人間だから絶対負けてはいけないと、彼らの2倍勉強しました。僕は博士号を取ったときに、一番年上で、一番若い人は僕よりも9歳年下でした。そして「お前は何でこんなに遅く博士号を取ったんだ。数学をやる前に何か他のことをやってたのか」と言われ、僕は恥ずかしくて「実は哲学をやっていたんだ」、そうやって嘘をつきました。

しかし人生にはですね、ものが変化していくときに、量的な変化というのがあります。少しずつ、ある一定の速度で物質を増したりして変化していきます。しかし時に飛躍することがあるんです。これを質的な変化と言います。質の変化が起きるんです。不思議に縁があってですね、僕は33歳の時にニューヨークのコロンビア大学の教授になりまして、みんなが、若い教授、若い教授って言うてくれまして、そして勢いを得て非常にいい成績、業績を上げて、フィールズ賞を受賞し、それから日本に帰って文化勲章を受賞しました。僕が文化勲章を受賞した時は44歳でした。その時みんなは、若い文化勲章、文化勲章って言うわけです。僕が大学を卒業して大学院へ入学するときに、僕より1歳年下の人から、僕は学生なのに相手は京都大学の助教授をやっており、お前は遅いやつだと言われました。しかし、人生には飛躍というのがあるんです。僕の場合は30代の前半、そしてまた、40代の後半に飛躍がありました。

この歳になるとですね、こういう入学式に臨むことは二度とないかも知れない。特に学長としてあいさつすることは、もう二度とないでしょうね。しかし、皆さんには未来があるんですよ。皆さんが71歳になった時を想像してみてください。どんなことが起こってるか想像できますか。数学的に言うと量的な変化は想像できます。だけど質の変化というのは想像できないんです。その想像できないことが起きるんです。面白いじゃないですか。だから人生楽しいんですよ。

これから、いろんな段階で、皆さん勉強したり、あるいは勉強が嫌になったり、趣味にのめり込んだりすることもあるかも知れませんが、僕が学生の頃だったけど、2晩かけてラブレター書いたことがあります。で、全然返事が貰えなかったんです。だから、あきらめました。その時に、あきらめるといふことの凄さを発見したんですよ。それから何回も色々なことが人生の中でありましたけど、これが駄目だと思ったらあきらめて、また新しいことに乗り出してきました。自分を発見して、いろんな段階で自分を発見して、そして辛抱強く自分をはぐくんでいって、そして最後には、十分自分で納得できるような人生をつくってください。

ある日、君たちが、君たち自身が自分の力に、こんな能力があったのかと、今まで知らなかったこんな能力があったんだとびっくり仰天することがあります。それが30歳で来るかも知れないし、40歳、50歳で来るかも知れない。それを信じてください。これは大先輩、これだけ年をとった人間が皆さんに送る言葉です。覚えておいてください。50年先に、また僕のことを思い出してくれればありがたいことです。電車の中で、街で、もし僕に出会って、もし気が付いたら「廣中」って呼んでください。君たちのように柔らかい、そして未来の可能性がある、そういう人たちと会って話をするのは嬉しいことですよ。喜ばせてください。そして頑張ってください。どうもありがとうございます。

平成14年4月9日 学長 広中平祐